

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01347

研究課題名（和文）古代メキシコの都市形成史：世界の知的体系化と物質化

研究課題名（英文）Urbanization in Ancient Mexico: Intellectual Systematization and Materialization of Worldview

研究代表者

嘉幡 茂 (Kabata, Shigeru)

京都外国語大学・京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター・客員研究員

研究者番号：60585066

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本課題研究の目的は、古代メソアメリカ文明のメキシコ中央高原において、何故人々はある特定地域に集中し都市化（前100～後200年頃）が達成されたのかを解明することにあった。これに向かい、メキシコ合衆国プエブラ州トラランカレカ遺跡で考古学調査を実施し、獲得したデータと先行研究の精査を基に歴史復元を行った。本課題研究では、都市を単なる物質空間としてではなく象徴空間として理解し、その象徴性の要としてピラミッドに着目しながら、従来の解釈とは異なった歴史像を提供できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、本課題研究で獲得した考古学データを考古学のみではなく、歴史学と人類学の枠組みで解釈し、新たな歴史観と社会の複雑化に関する知見を提供できたことにある。これに加え、「都市」を古代人の世界観を基に定義つけたことにより、人々が何故ある特定地域に集住するのかという疑問に対し、従来とは異なった見解を提示できた。都市を物質空間としてではなくシンボルを共有する象徴空間として捉える観点は、現代における都市の盛衰を分析する上でも援用可能であろう。これが社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the present project was to elucidate why people concentrated in a specific area and promoted urbanization (around 100 BC to 200 AD) in Central Mexico. To this end, we conducted an archaeological survey at the Tlalancaleca site in Puebla, and reconstructed the history based on the data obtained and the scrutiny of previous studies. In this project, we were able to understand the city not as a mere material space but as a symbolic space, and focused on the pyramids as the key to that symbolism, and could provide a history that is different from the conventional interpretation.

研究分野：考古学

キーワード：メソアメリカ 古代都市 トラランカレカ テオティワカン ピラミッド 象徴性 世界観

1. 研究開始当初の背景

(1) テオティワカンは、紀元前2世紀から後6・7世紀までメキシコ中央高原で発展し、多様な社会階層や民族集団が存在する都市として成長した。その影響力は、マヤ地域の各王朝やオアハカ地域のサポテカ王国のみならず、メソアメリカ文明圏全域に及び、テオティワカンは強力な初期国家の首都であったと解釈されている。しかし、この地での急激な都市化や国家形成を引き起こした原動力と歴史背景に関する研究は停滞している。これには次の2点に関連している①。

(2) A: 理論的観点の不均衡: 先行研究の多くに、内的または外的要因のどちらかを重視する傾向が認められ、自然環境や周辺地域の地政学的関係と内的要因を統合し考慮する視点が乏しい。
 B: 学術調査への政治的・経済的影響力: 現代メキシコのナショナリズムとツーリズムがAを助長している。新大陸最大の都市国家テオティワカンは、現代のメキシコ人をも魅了し、歴史面から国民の統一を助ける政治的価値を持つ。また、ユネスコ世界文化遺産(1987年)に登録され最大の観光客を得ている遺産物件は経済的価値も併せ持つ。これにより研究者と研究費の流れは質量共にこの遺跡に向かい、テオティワカン中心史観が形成されるに至った②:32-39。

(3) 複雑化社会へと至る多様な道筋を考察し、現代社会の諸問題の解決に向けて知見を提供すべきはずの人類学的「問い」は、テオティワカンという出発点を獲得したことにより、政治・経済色を帯びたものへと変質している(e.g., ③)。結果、都市化と古代国家形成のプロセスは、先行社会と連続した歴史軸上(通時的観点)で考察されず、さらに、この現状は周辺地域のダイナミズムと自然環境の影響を射程にした理論(共時的観点)の構築を妨げている。

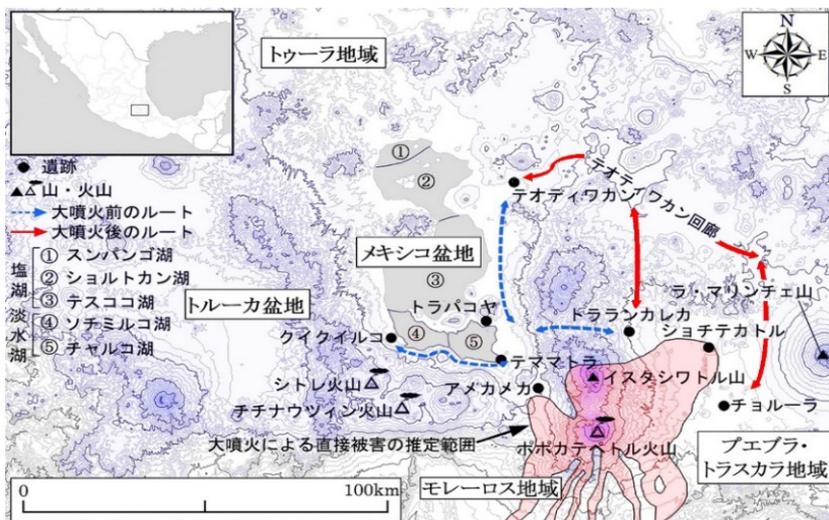


図1 メキシコ中央高原の地図と主要遺跡の位置

2. 研究の目的

(1) 古代メソアメリカ文明において、「都市」とは何かを明確にする(観点の確立)。

(2) メキシコ中央高原(図1)において、何故人々はある特定地域に集中し、都市化が達成されたのかを解明する(実践研究)。

(3) 社会の複雑化に関して歴史学的・人類学的に新たな解釈を提供する(学界への貢献)。

3. 研究の方法

(1) 「都市」を定義づけるため、これに関する先行研究の精査、エスノヒストリーからの知見、そして、現在までに獲得した研究代表者らの考古学データを基に総合的な解釈を行った。

(2) メキシコ中央高原における都市化の理解に向け、メキシコ合衆国プエブラ州トラランカレカ遺跡で発掘調査と3次元測量調査を実施し、回収された遺物(主に、土器、黒曜石、建築資材)の肉眼分析と科学分析(C14年代測定、XRF、PIXE、TGA、SEM/EDS)を基に、当該社会の盛衰の解明に努めた。

4. 研究成果

(1) 古代メソアメリカ文明における都市性の議論の中心は、遺跡の大きさや拡大過程、人口数と密度、公共建造物の大きさと密集性、社会階層の多様性や分業、交易網の発展・確立といった考古学的に観察されやすい物質的側面に置かれてきた。一方、本課題研究では当時の世界観を重要視し、以下のように定義づけを行った。

古代メソアメリカ文明における都市は、確かに富を基に形成された物質空間の側面を備えるが、その本質は社会的紐帯をより大規模に可能にさせた象徴性にある。物質的豊かさは、この社会的紐帯の成功がカギとなっている。さらに、社会的紐帯の成功とは、自然景観に存在する各要素(山や川や天体など)のシンボル化と成員間の共有化による。従って、自然景観を取り込んだ世界観の知的体系化とその物質化の成功が、都市を形成・発展させた。反面、この不首尾が都市を衰退へと向かわせた。

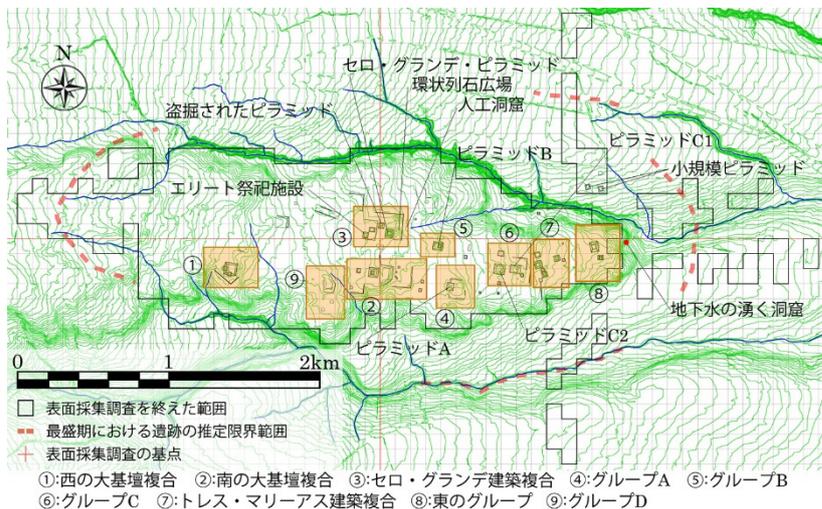


図2 トラランカレカ遺跡の平面図

を利用し、あるいは人工的に建造した。都市の中にピラミッドと洞窟を建造することで、三層の世界を繋ぐ垂直軸を発生させ、神々を取り込むことで社会の成長が保証されるとの観念体系を発展させた(4)。都市の盛衰を考察する一つの観点として、どのようにピラミッドと洞窟が建造され変化したのかを分析することが有効であるとの結論に達した(研究の目的(1))。

(3) 紀元後 70 年頃に起こったポカテペトル火山の大噴火(5)により、社会変動とパラダイム・シフトが起こり、新たな社会的秩序を確立する動きが起こった(図1参照)。この一つに都市化が挙げられる。トラランカレカ(前 800~後 300 年;図2)、テオティワカン(前 100~後 550/600 年)、 Cholula (前 200~後 600 年) が発展し、ピラミッドの建造が活発化した(6)。先行研究では、大噴火の後、被災民を吸収したテオティワカン社会が発展し、メキシコ中央高原全域にわたる影響力を獲得し、社会の混乱を収めたとの解釈が主流である。一方、本課題研究の成果から、より詳細な歴史復元が可能になった。



図3 (左) ピラミッドの発掘風景;図4 (右) 日干しレンガを用いたピラミッドの内部構造

(4) 被災民は主に上記 3 遺跡に避難し、三者の為政者らは古参住民と彼らを統合しながら独自の戦略の下、各社会を発展させた。その実践にピラミッドの建造が挙げられる(7)。大噴火を神々の怒りと理解した古代人は、安寧を求めるがために、神々と交信する舞台(ピラミッド)の建造に莫大な投資を行ったと言える。ピラミッドの形状や大きさそして外壁装飾に多様性が認められるのは、安寧の希求の方法が異なっていたことを間接的に示す(研究の目的(2))。A: 大噴火前までと同様の伝統的な思想を基に垂直性を確保する戦略(トラランカレカ;図3)、B: 垂直性を物質化するのに、自然の地形を利用するのではなく、すべてを人工的にそして大規模にかつ複数の地点で建造した、先行社会の思想を刷新する戦略(テオティワカン)、C: 新たな垂直性を模索し、一般階層にとって身近な存在を目指した戦略(Cholula)と要約できる(6)。

(5) ピラミッドへの莫大な投資は、一見、拡大化に認められる。しかしこの拡大化を可能にした固定荷重に耐えうる内部構造の根本的な開発(「部屋状補強土壁工法(sistema de cajón)」;図4・5)、そして建築資材(主に日干しレンガ)の改良に向けた試行錯誤が行われていた、結果、建築技術にイノベーションが達成されていたことを本課題研究で発見した(8)。

「部屋状補強土壁工法」とは、建造物の内部を日干しレンガで積み合わせたいくつもの壁で分割し、この部屋状の空間を土や石で版築しながら巨大な建造物を建造する技術のことである。内部構造を安定させ建造物自体の崩壊を防ぎ、こもる湿気を一か所に集中させず各空間へと分散

(2) シンボルの一つがピラミッドである。古代メソアメリカの人々は、ヒトは天上界と地上界と地下界が垂直に交わる「聖なる山」で誕生したと信じた。集落や都市の中心部に築かれたピラミッドは、「聖なる山」を物質化する重要な構成要素の一つであった。これを介して、天上界の神々と交信し寵愛を得ることで、地上界の社会の安寧が約束されると信じていた。

同時に、地下界の神々からも同様の寵愛を得るため、古代人は天然洞窟

させる役割がある。日干しレンガの改良に関しては、焼成レンガ（約 600°C）がトラランカレカで開発されていたことを指摘できる。現在まで、レンガは後古典期後期（後 1200～1521 年）に開発されたと考えられていた。耐久性や強度においてまだまだ改良の余地は残っているが、その萌芽は形成期終末期（前 100～後 200 年）にあったと言える。「部屋状補強土壁工法」を基に建造されたピラミッドの導入（図 5）は、土器型式と C14 年代測定の結果と日干しレンガの規格から、紀元後 100 年頃であったことが判明した(⑦,⑨)（研究の目的(2)）。

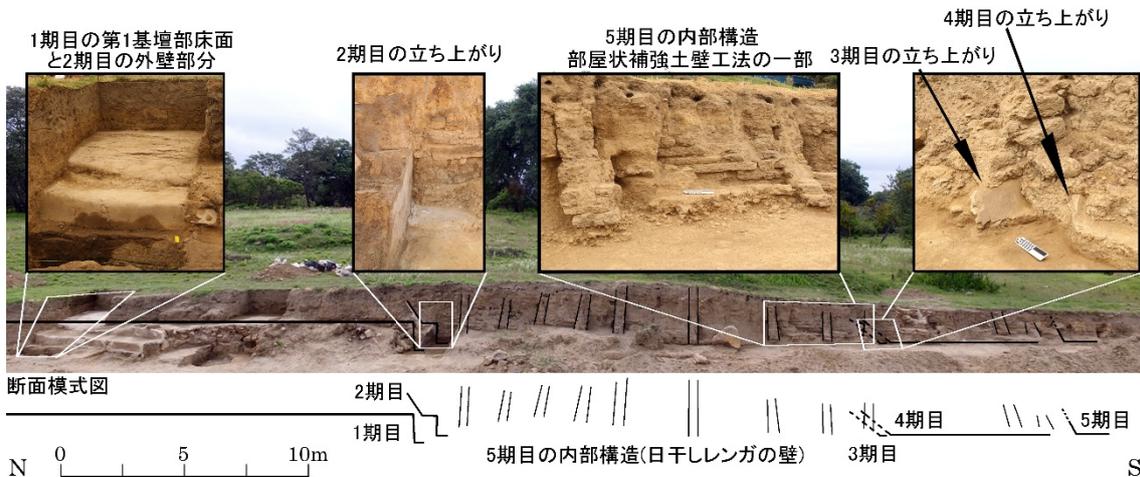


図 5 「部屋状補強土壁工法」の導入時期を示すピラミッドの断面図（⑨グループ D；図 2 参照）

(6) 研究成果(1)と(2)で提示した観点と(3)から(5)で明記した考古学データとその解釈を基に、メキシコ中央高原の都市化は以下のように復元できるだろう（研究の目的(3)）。

都市化はポポカテペトル火山の大噴火を契機に始まった。これにより、確かにテオティワカンが発展し影響力のある国家へと成長した。しかしながら、社会の解体と再編はこの国家だけではなく、他の地域でも起こっていた。そして、その中心になったのがピラミッドの建造である。原動力には、ピラミッドを基に、秩序ある世界を新たに求める人々の願いがある。そして、常に神々と交信できる崩落しない舞台を欲し、建築技術が飛躍的に進歩した。「部屋状補強土壁工法」の開発と日干しレンガの大量生産そしてレンガの発明の融合がイノベーションを創出させ、倒壊しない巨大ピラミッドの建造を可能にした。ピラミッドは、単なる建築物ではない。人工的に造られた聖域である。天上界と地上界と地下界を繋ぐ魂の昇降機（エレベーター）である。同時に、異世界からの来訪者（神々や精霊や先祖）を迎賓する役割も兼ね備える。そうであるからこそ、古代人はこの建造の成功に向け多大な努力を惜しまなかった。

都市とは何かそして社会の発展の原動力とは何か、本課題研究を通して、新たな知見を提供できたと考える。

<引用文献>

- ① 嘉幡 茂、村上 達也、古代メソアメリカ文明における古代国家の形成史復元：「トラランカレカ考古学プロジェクト」の目的と調査動向、古代文化、67巻、2015、99-109
- ② 嘉幡 茂、テオティワカン：「神々の都」の誕生と衰退、2019、雄山閣
- ③ Trigger, B. G., *Alternative Archaeologies: Nationalist, Colonialist, Imperialist. Contemporary Archaeology in Theory: A Reader*, 1996, 615-631, Blackwell Publishers
- ④ 嘉幡 茂、村上 達也、J. ロペス、自然景観を取り込んだ古代都市：トラランカレカ、古代文化、68巻、2017、75-83
- ⑤ Uruñuela L. de G., G., and P. Plunket, *Interwoven Discourses: Exploring Cholula and Teotihuacan Interaction, Teotihuacan: The World Beyond the City*, 2020, 277-302, Dumbarton Oaks Research Library and Collection
- ⑥ 嘉幡 茂、なぜ古代人はピラミッドを造ったのか—メキシコ中央高原の古代都市に秘められた暗号—、『古代アメリカの比較文明論：メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』、2019、70-81
- ⑦ 嘉幡 茂、J. ロペス、古代メキシコのパラダイム・シフトと技術革新：ピラミッドのフルモデルチェンジとマイナーチェンジ、『季刊考古学別冊 36：心とアートの人類史』、2022、116-126
- ⑧ López, J., S. Kabata, y T. Murakami, La arquitectura de Tlalancaleca, Puebla. Definiendo la tradición constructiva del Formativo en el centro de México, *Arquitectura mesoamericana de tierra*, vol. II, 2021, 55-87, Universidad Nacional Autónoma de México
- ⑨ Murakami, T., Alexander, J., and S. Kabata, Dating the Beginning of Urbanization in Central Mexico: A High-Resolution Chronology of the Middle Formative Period at Tlalancaleca, *Radiocarbon*, in print, Cambridge University Press

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 22
2. 論文標題 「病」から誕生したアステカの太陽神：陰と陽を併せ持つ天使たち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所「紀要」	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kabata, Shigeru, Tatsuya Murakami, y Julieta M. Lopez Juarez	4. 巻 1
2. 論文標題 Herencia del Formativo al Clasico en el Altiplano Central de Mexico: Proyecto Arqueologico Tlalancaleca, Puebla	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Mesoamerica: el estudio de sus procesos de transformacion social desde una perspectiva de larga duracion	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kabata, Shigeru, Tatsuya Murakami, and Julieta M. Lopez Juarez	4. 巻 1
2. 論文標題 The Formative Heritage in Central Mexico: Proyecto Arqueologico Tlalancaleca, Puebla	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilizations	6. 最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Lopez J., Julieta M., Shigeru Kabata, y Tatsuya Murakami	4. 巻 II
2. 論文標題 La arquitectura de Tlalancaleca, Puebla. Definiendo la tradicion constructiva del Formativo en el centro de Mexico	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tradiciones Constructivas en Tierra de Mesoamerica	6. 最初と最後の頁 55-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、フリエタ=ロベス	4. 巻 36
2. 論文標題 古代メキシコのパラダイム・シフトと技術革新：ピラミッドのフルモデルチェンジとマイナーチェンジ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『季刊考古学』別冊36心とアートの人類史	6. 最初と最後の頁 116-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、マリア・フェルナンダ=デ・ラ・セルバ・エルナンデス、フリエタ・マルガリータ=ロベス・ファレス	4. 巻 13
2. 論文標題 マンガが伝えるメキシコの歴史と文化 情報発信ツール開拓への挑戦	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MUC京都外大国際文化資料館紀要	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、村上達也、フリエタ・マルガリータ=ロベス・ファレス	4. 巻 68
2. 論文標題 メキシコ合衆国、プエブラ州トラランカレカ遺跡：ピラミッドの存在価値と「洞窟に住処のある場所」の真意	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、坪井美和、窪田有華	4. 巻 13
2. 論文標題 トラジェコルティア：(トピック1)考古学って何? : 古代人の知恵	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MUC京都外大国際文化資料館紀要	6. 最初と最後の頁 62-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、坪井美和、窪田有華	4. 巻 13
2. 論文標題 トラジェコルティア：(トピック2) 探偵ミリアム：盗掘者？考古学者？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MUC京都外大国際文化資料館紀要	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、坪井美和、窪田有華	4. 巻 13
2. 論文標題 トラジェコルティア：(トピック3) ラ・ペドレーラの不思議：太陽と人と	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MUC京都外大国際文化資料館紀要	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kabata, Shigeru	4. 巻 20
2. 論文標題 Cambios diacronicos en las actividades relacionadas con la obsidiana y su intervencion por el Estado teotihuacano	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Boletin del Instituto de Estudios Latinoamericanos de Kyoto	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kabata, Shigeru, Jose Luis Ruvalcaba Sil, y Julieta Margarita Lopez Juarez	4. 巻 20
2. 論文標題 Sistemas de abastecimiento de obsidiana entre el Estado teotihuacano y las sociedades del valle de Toluca	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Boletin del Instituto de Estudios Latinoamericanos de Kyoto	6. 最初と最後の頁 29-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村上達也、嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 古代メソアメリカ文明とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上達也、嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 メキシコ中央高原文化：テオティワカンからトルテカ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 103-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 冶金術	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 63-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 クイクイルコ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 134-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 チョルーラ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 142-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 ソチカルコ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 146-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 カカシュトラ・ショチテカトル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 150-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、村上達也	4. 巻 1
2. 論文標題 トラランカレカ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代メソアメリカ文明ゼミナール	6. 最初と最後の頁 138-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 1
2. 論文標題 なぜ古代人はピラミッドを造ったのか メキシコ中央高原の古代都市に秘められた暗号	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代アメリカの比較文明論: メソアメリカとアンデスの過去から現代まで	6. 最初と最後の頁 70-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上達也、福原弘識、D. マタダマス、嘉幡茂	4. 巻 22
2. 論文標題 酒と水と嵐の神の壺 形成期終末期トラランカレカにおける都市の発展と社会統合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代アメリカ	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂、J. ロベス、荒木昂大、村上達也	4. 巻 22
2. 論文標題 水の神と火の神 - 割って入った神の出現による社会の変化 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代アメリカ	6. 最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山和夫、嘉幡茂、塚本憲一郎、市川彰、福原弘識、長谷川悦夫	4. 巻 22
2. 論文標題 メソアメリカの複雑社会の起源・形成・衰退に関する比較文明論研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代アメリカ	6. 最初と最後の頁 3-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 9
2. 論文標題 周辺の独自性 トルカ盆地南東部とテオティワカンの黒曜石交易システム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人類学研究所研究論集	6. 最初と最後の頁 51-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嘉幡茂	4. 巻 59
2. 論文標題 コイントス「驚か、太陽か」 メキシコ中央高原の初期国家の解明に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Chaski : アンデス文明研究会会報	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 アステカの太陽神はイケてない? : 「病」は天使の証
3. 学会等名 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所講演会 (オンライン発表) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 プロパガンダとして誕生したアステカ神話 : 太陽を「私物化」したテノチカ人の野望
3. 学会等名 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所講演会 (オンライン発表)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 今に生き続けるアステカの古代遺産：硬貨に現れるその二面性
3. 学会等名 京都外国語大学・学園創立75周年記念特別展関連企画・記念シンポジウム「古代とは何か～世界の古代文明からひもとく～」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 Mapeo y registro en 3D para los estudios arqueologicos: drone, PhotoScan y escaner en el Proyecto Arqueologico Tlalancaleca, Puebla
3. 学会等名 「文化庁 文化遺産国際協力拠点交流事業「グアテマラ世界複合遺産『ティカル国立公園』における文化遺産の三次元計測と取得データの活用法に関する現地人材養成事業」第二期研修(オンライン発表)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 『図説マヤ文明』の見どころと筆者の素顔と裏側
3. 学会等名 「2021年度第2回研究懇談会(西日本部会)『著者と語る図書紹介 その裏側全部見せます!!』」(オンライン発表)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 嘉幡茂、フリエタ=ロベス
2. 発表標題 古代メキシコにおけるピラミッドのフルモデルチェンジとマイナーチェンジ
3. 学会等名 「出ユーラシアの統合的人類史学-文明創出メカニズムの解明-」第6回全体会議(オンライン・ポスター発表)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 古代メキシコのピラミッドに秘められた暗号：天上界と地下界を結ぶ摩天楼の完成
3. 学会等名 オンライン学習 教養講座（第31回メキシコセミナー）日墨交流会主催 / メキシコ・日本アミーゴ会協力 / 在日メキシコ大使館後援Zoom講演会(オンライン) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 古代メキシコにおける『宇宙の都』の建設
3. 学会等名 イベリア・ラテンアメリカ文化研究会（SECILA）第76回例会Zoom講演会(オンライン) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 なぜピラミッドは造られたのか？ 古代メキシコの摩天楼と都市の萌芽
3. 学会等名 発見！世界の考古学（文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業「ヤマト・天理の歴史文化をめぐる」）(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 古代メキシコにおける『宇宙の都』の盛衰：トラランカレカ、テオティワカン、 Cholula
3. 学会等名 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所第10回研究会Zoom講演会(オンライン発表)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tastuya Murakami, Diego Matadamas Gomora, Shigeru Kabata, Julieta Lopez Juarez
2. 発表標題 Early Urbanism and Intermediate-Scale Social Interaction in Formative Central Mexico: Ritual Practice and Socio-Spatial Organization at Tlalancaleca, Puebla
3. 学会等名 Society for American Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嘉幡茂、フリエタ・M.=ロベス・J.、村上達也
2. 発表標題 なぜピラミッドは倒壊しないのか：観念の変容による技術革新の誕生
3. 学会等名 古代アメリカ学会 第24回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 世界平和のために造られたメキシコのピラミッド～でも、それだけでは安寧は訪れない～
3. 学会等名 アンデス文明研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 嘉幡茂
2. 発表標題 メキシコ考古学とコイントス：マンガを介した地域社会のアイデンティティ形成支援
3. 学会等名 文化遺産国際協力コンソーシアム第13回中南米分科会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 伊藤伸幸、嘉幡茂、村上達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 530
3. 書名 メソアメリカ文明ゼミナル	

1. 著者名 嘉幡茂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 202
3. 書名 テオティワカン 「神々の都」の誕生と衰退 (環太平洋文明叢書)	

1. 著者名 嘉幡茂	4. 発行年 2020年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 132
3. 書名 図説 マヤ文明	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	南 博史 (Minami Hiroshi) (00124321)	京都外国語大学・国際貢献学部・教授 (34302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市川 彰 (Ichikawa Akira) (90721564)	名古屋大学・人文学研究科・共同研究員 (13901)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村上 達也 (Murakami Tatsuya)	テュレーン大学・教養学部・准教授	
研究協力者	ロペス フリエタ (Lopez Julieta) (80830067)	京都外国語大学・京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター・客員研究員 (34302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
メキシコ	メキシコ国立自治大学			
米国	テュレーン大学			